

凱旋がいせん（乃木希典のぎまれの）

王師百萬征驕虜 野戰攻城屍作山  
愧我何顔看父老 凱歌今日幾人還

王師おおし 百萬ひやくまん 驕虜きょうりよ を 征すせい

野戰やせん 攻城こうじょう 屍かばね 山やま を 作すな

愧は ず 我われ 何なん の 顔かんばん あつてか 父老ふろう に 看まみ えん

凱歌がい 今こん 日にち 幾人いくにん か 還かえ る

解説 日露戦争終結後、同戦争の第三軍司令官として指揮し、多くの兵士を戦死させた激しい戦いをふり返つての作。

語釈 ※王師＝王者の軍隊、天子の軍。

※驕虜＝「驕」はおごる「虜」はえびす。ロシア軍をさす。※野戦＝原野の戦。二〇三高地攻略をさす。

※攻城＝城塞を攻めること。※屍作山＝戦死した兵卒の屍骸があまりに多く山のように重なったという形容。※顔＝面目。※看＝「まみゆ」と訓ずるのは謙讓の意を含む。普通には「みる」と訓してもよいのだが、將軍のへり下る意を汲んで、こう訓ずる。

通釈 わが皇軍百万、驕慢無礼な露軍を討ち懲らすべく満州の原野に出征した。強敵露軍の備えは万全で、野戦の要塞攻略で討ち死にした兵士の屍は累々として山をなしたのである。勝利を収めたとはいえ、多数の戦死者を出したことはまことに申しわけもなく、国に待つ父老に合わせる顔がない。勝ち戦の歌をうたいながら、今日、故郷に帰ることのできる兵士は、百万人中幾人もいないではないか。